
「海の生き物を守る会」メールマガジン No.29

2008. 12. 1 (月)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物」 フタスジリュウキュウスズメ *Dascyllus reticulatus*

スズメダイ科の魚で、伊豆半島から南のサンゴ礁に棲む。身体に白色の広い横帯があり、その前後に黒の横帯が2本あるので、フタスジリュウキュウスズメと名付けられた。2本の黒の横帯は幼魚ではきわめて明瞭であるが、成魚になると薄くぼやけてくる。サンゴの枝



の周辺で生活し、外敵が来た場合にはサンゴの枝の中に隠れるなどサンゴと密接な関係を持つため、サンゴが無くなると生活の基盤を失って絶滅する運命にある。

(フィリピン、ミンダナオ島にて 向井 宏撮影)

目次 「今月の海の生き物」フタスジリュウキュウスズメダイ

1. 会員同士の質問コーナー
2. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
3. 当会の現在の活動と予定
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
6. 事務局便り
7. 編集後記
8. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

1. 会員同士の質問コーナー

【問い】

「こんにちは、向井会長、守る会会員嶋永元裕（No.20）です。先月 11 月 9 日に発行された会報 20 に載っていた、記事に関して質問があるので、筆を取らせていただきました。

『●活動を学術会議分科会で報告』という題名で『9 月 24 日に行われた日本学術会議環境学委員会の自然環境保全再生分科会（鷺谷いづみ委員長）で、委員長の要請で「海の生き物を守る会」の野付半島に関わる活動の紹介をしました。その際に、「里海」という言葉の問題点、アマモ移植の問題点などについても説明をしました。分科会にオブザーバーとして出席していた環境省自然環境計画課の人たちにも、主張を届けることができました。』という記事が載っていたのですが、これに関して質問があるのです。

僕は、「里海」という響きから、「里山」と似たような感じで、かつての漁村の原風景みたいなものを連想し、「遠洋漁業とかで、外国の海のマグロとかを死滅するまで獲ったりせずに、近場の漁場で、昔なじみの魚を獲ろうよ、そして、そういう魚が獲れる海を取り戻そうよ」という意図で作られた造語なのかなと、勝手に考え、「里海」という言葉に対していいイメージがあったのです。また、広島大学には、「里海創生プロジェクトセンター」という組織があるようです (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hubol/SATOUMI/>)。

ですから、向井さんの上の言葉に「問題点で、なんだろう？」と伺ってみました。うみひろも 4 号にて、すでに問題点の指摘がされていますが、より詳しく向井さんの意見が知りたいのです。よろしくおねがいします。」

【回答】

「おそらく多くの人は貴方の言うような意味を漠然と考えているのだろうと思います。「里海」はむかし懐かしく遊んだ海のことと。でもそれはもはや妄想でしかありません。人々が妄想して楽しむだけなら、それはそれで良いのかもしれない。 「三丁目の夕陽」という漫画が評判を取ったのは、失われた家族の愛情やご近所の人々の人間的なつながりを懐かしむからです。いまあの状況を再現したら、おそらく単なるスラム街としか見られないでしょう。

問題なのは、「里海」が「里山」のアナロジーとして定義されていることです。「里海」とは、「人手を加えて高い生物生産性と生物多様性を維持している海」と最初に定義した柳さんは書いています。「うみひろも」にも書いたように、そのような海はどこにもありません（生産性は一時的にあげることはできますが、生物多様性は決して上がらない、低下する一方です）。そして問題なのは、その定義を利用して、「里海」創成を公共事業として、巨額の税金が投入されている、もしくはされようとしていることです。「人手を加えた」くてむずむずしている人たちがいっぱいいるということなのです。国交省、農水省、環境省がそれぞれ「里海」創成（復活）と称して、人工干潟の土木工事やアマモの植え付けなどをやっています。どちらも決して海を回復するものではありません。以前にも話したように、本当の環境破壊の原因をマスクするものでしかありません。「里海」ということばは、いまそういう風に使われています。（向井 宏）」

*** うみひろもでは、記事の内容に対する質問も受け付けています。共通性の高い話題に関しては、了承を得た上、紙面にて回答いたします。この場合、匿名を希望される方は、その旨お伝えください**

2. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●サンゴ礁学会が「サンゴ移植」を推進？ 熱い議論が...

静岡県の東海大学で開かれていたサンゴ礁学会が終わったが、学会がサンゴの移植を勧めるような学会記事を掲載する方針に、学会員から疑問の声が上がっている。サンゴの移植がサンゴ礁の再生に有効かどうかという議論と同時に、学会の立場についての議論が続いている。

サンゴの移植がサンゴ礁の「より重要な保全行動へ向かうべき力のすり替え」になるのではないかという疑問が出されている。この問題は、アマモの移植、ウミガメ卵の保育などと同じように、善意の活動がかならずしもいい結果をもたらさない、むしろ逆の効果を

持っていることにつながっている。詳しい報告は次号以降にレポートする予定。読者の皆さんからの意見投稿を期待します。

【近畿】

●木を植えて魚を殖やす 「ふるさと香住塾」

兵庫県香美町香住区のまちづくり団体「ふるさと香住塾」は、山に木を植えて魚を殖やす植樹事業を続けている。今年と同町小代区秋岡地区の山林にトチやブナの植樹を行った。豊かな海をつくるためには、豊かな山林づくりが必要と、矢田川水系の源流に当たる同地区の山林に広葉樹の植樹を続けており、今年で12回目となる。

植樹作業は、同地区のまちづくり団体「秋岡新風会」と合同で実施。香住塾と新風会のメンバーのほか各種関係団体など計約三十人が参加した。塾長は「これまで二千本近くの広葉樹を植えてきた。木の成長は人と違い十二年たっても、まだ目に見える成果は生まれていないが、未来につながると信じている」と話した。何年経ったら成果が生まれるだろうか。また、壊すのはどのくらいの時間が必要だったのだろうか。木を植えるだけではなく、考えて欲しいテーマである。

【中国】

●上関原発の埋立て取消を求めてスナメリなど動植物が提訴

山口県上関町長島田ノ浦を埋め立てて上関原発を建設する計画に、山口県知事が埋め立て許可を与えたことに、長島の自然を守る会などの市民団体が許可取り消しを求めて12月2日に山口地裁に訴状を提出する。原告には、スナメリ、カンムリウミスズメ、ナメクジウオ、ヤシマイシン近似種、ナガシマツボ、スギモクなどの動植物がなり、その代理人として長島の自然を守る会が位置づけられる、自然の権利訴訟としての性格を持っている。書状を提出した後、スナメリなど記者会見を行う予定。

この訴訟には、日本生態学会や日本ベントス学会に所属する科学者も支援団体を作って応援する予定である。

●日本ウミガメ会議を開催

「第19回日本ウミガメ会議」(NPO法人・日本ウミガメ協議会、明石市主催)は11月、明石市立市民会館で、3日間にわたり研究者やウミガメ保護活動団体による研究発表会を開催した。閉会式では「ウミガメが産卵しやすい砂浜環境を目指す」などと呼びかける「明石宣言」を発表した。一方、明石市の浜では、アカウミガメの産卵が3年ぶりに確認された。

●漁協が柳井湾にアマモの種2万粒をまく

アマモ場を再生しようと山口県漁協柳井支店の青壮年部が、6月に採取したアマモの種子約2万粒を、柳井市阿月沖の海底にまいた。アマモ場を再生させて漁業資源を回復させるのが目的で、昨年からの試みは2年目になる。種は柳井南中学校三年生に協力を頼み、同市伊保庄海岸で採取したもので、県水産研究センターで保管。今年の新しい試みは、種が海水に分散しないようにコロイド液に交ぜて、海底の砂地に固定する方式を採ったこと。二酸化ケイ素のコロイド液に種と腐葉土を混ぜてペースト状にしたあと、漁船で阿月沖約50m地点で海に潜って、種の混じったペースト液の入った袋やネットを水深約2mの砂地に固定した。柳井湾には過去に大規模なアマモ場があったが、中国電力柳井火力発電所の埋め立てで消失した。残ったアマモ場もここ数年減少し、阿月沖は絶滅状況という。そのためか、漁獲高も十年前に比べ三分の一に激減しているという。昨年秋に初めてアマモの種子約1万粒をまいたが、100本程度が発芽しているという。コロイド液を海底に一面に塗りつけるという行為が海底に生活している底生生物にどのような影響があるか、考慮されたのだろうか。このような行為はけっして環境改善に繋がらないだろう。マスコミがこのような行為を善として煽る傾向にあるのは、問題である。

【九州】

●和自干潟まつりで 海岸清掃や生き物観察

「第20回和自干潟まつり」福岡市東区和自の海岸で開かれた。バードウォッチングや干潟の生き物観察を楽しむイベントが行われ、多くの来場者でにぎわった。環境保護団体「和自干潟を守る会」と、グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部でつくる実行委員会が主催。このイベントはラムサール条約への登録に向けた機運を高めるのが狙い。

会場では植物観察やバザーのほか、マジックジョーなども実施。海岸線を埋めるアオサの回収作業も行った。守る会代表は「開発から干潟を守り、生物や渡り鳥が暮らせる湿地を未来につないでいきたい」と語った。

●マナヅルが伊万里市長浜干拓地で「越冬」か

伊万里市東山代町の長浜干拓でつがいとみられるマナヅル2羽が観察されている。今冬初めてのツルの越冬と思われる。伊万里市は、10日以上滞りが確認された場合を「越冬」とみなしており、2羽はすでに10日以上滞在している。観察している市民団体「伊万里鶴の会」の話では「例年通りだと、2月中旬まで滞在してくれるはず」とのこと。同市は、越冬のためシベリア方面から鹿児島県出水市へ南下するツルの通り道に当たるが、2003年から越冬誘致事業を進めている。

●出水のツルあと102羽で一万羽

出水平野で越冬するツルの調査が29日早朝行われ、9898羽という結果になった。一万羽を期待されていたが、あと102羽足りなかった。関係者は次回に「万羽ヅル」を期待し

ている。内訳はナベヅル 8803 羽、マナヅル 1086 羽、クロヅル 5 羽、ナベクロヅル 1 羽、カナダヅル 2 羽、ソデグロヅル 1 羽の 6 種類。次回の調査は 12 月 13 日の予定。

●鹿児島県でウミガメ上陸数が過去最多

今年の鹿児島県内のウミガメ上陸確認数が、過去最多となった。1988 年の調査開始以来の多さで、確認数は 9443 回。前年の 3 倍くらいと大幅に増えた。2004 年の 7362 回以後、上陸数は減っていたが、4 年ぶりに増えた。鹿児島県内では屋久島の上陸確認数が最も多く、5605 回だった。一方で、「複数回上陸するウミガメもあり、実際の数は確認数の 6 分の 1 から 7 分の 1 程度。産卵場となる海岸の減少、見学者が子ガメを踏みつけてしまうなど懸念材料もある」と、保護対策の必要性を訴える声も聞こえた。今年は全国的にウミガメの上陸確認数が増加しているが、原因がウミガメ類の個体数の増加によるものかどうかは不明である。

●ハマボウ群落間近に散策路

鹿児島県南さつま市の万之瀬川河口に地域振興局が整備を進めていた「ハマボウ群落散策路」が完成した。万之瀬川河口干潟には国の天然記念物に指定されているハマボウ群落があり、散策路からは干潟生物群集も近くで見られる。開通式で、同振興局の局長は「自然環境にも配慮して整備を進めた。愛着と誇りを持って、環境学習など多くの人に親んでもらいたい」とあいさつした。散策路は 1940 年ごろ造られた堤防上の石畳（幅 2.5m、延長 365m）を整備したものという。万之瀬川河口には 1000 株以上のハマボウ群落があり、ハクセンシオマネキなどの干潟生物が数多く生息。昨年、国の天然記念物に指定された。

【沖縄】

●ゆいまーる琉球の自治の集い in 西表島 宣言

環境問題に関心のある沖縄県の自治体職員を中心とした「ゆいまーる琉球の自治の集い」が 11 月 14 日から 16 日まで西表島で開かれ、八重山諸島が抱える諸問題について議論した。集いでの議論を踏まえて次のような宣言が発せられた。

『現在、八重山諸島は「南の楽園」と呼ばれ、リゾート、ホテル、アパート等の建設が相次いでいる。石垣島白保にある青サンゴの群落も陸地からの赤土流出によって大きな被害を受けている。このままでは自然が無残に破壊され、住民は生活し文化を育む場所を失ってしまう。企業による住民を無視した横暴な行為を止めさせることができるのは、住民ひとりひとりによる「自治的自覚」にかかっている。企業誘致に島の運命をゆだねるのではなく、住民の自治によって島を守り、未来を自らの手でつくっていく必要がある。島を自らのからだの一部として生活し、島の過去・現在・未来に対し、責任をもって行動できるのは島の住民でしかない。住民ひとりひとりによる自治の実践が島を救うのである。』

西表島浦内では 4 年前に住民の反対を押し切って、ユニマツト社は巨大リゾートを建設した。リゾートの汚水は地下浸透で海に流され、世界でここにしかないトゥドゥマリハマグリが絶滅の危機に陥っている。海亀が産卵のために上陸する浜であったが、全く上陸しなくなった。地元民の雇用も少ない。さらにいまこのホテルを売りに出している事実もある。巨大リゾートを建設しても地域の活性化にはつながらないのだ。

それにもかかわらず、現在、ユニマツト社と、地元資本のドリーム観光社は同島船浮において、広大な土地を買い占めて巨大リゾートを建設しようとしている。ドリーム観光社は船浮に自生していた天然記念物のヤエヤマハマゴウを違法に伐採した。両社は、島の人々の生存権、生活権、環境権を無視して、資本の暴力を振り回すべきではない。数百年、数千年にわたり、地域の自然とともに生活し、文化を育み、自治を実践してきたのは島の住民たちである。一度破壊された風景や自然は二度と元には戻らない。船浮はイリオモテヤマネコが発見された場所でもある。竹富町は世界遺産登録を目指しており、船浮の開発が世界遺産登録にとって大きな障害になるおそれもある。

住民の意思を無視し、自然を破壊するホテル、観光施設を「観光客」として利用し、「日帰りツアー」に参加することを、私たちは強く拒否する。外部の企業だけが問題ではない。他の島々においても、島内の企業と島外の企業が結託して島々の開発が進められるケースが少なからずみられる。内外の企業による島の開発を阻止することができるのは、島民ひとりひとりの「自治的自覚」である。

日本各地に住む私たちは、現在の船浮で起こっていることを多くの人に伝えていく覚悟である。船浮の問題は、船浮だけの問題ではなく、西表島、八重山諸島のみならず、琉球全体、それから日本及び、全世界の問題であり、私たちひとりひとりの問題である。「自治的自覚」をもった人々の環を世界に広げていきたい。』

2008 年 11 月 16 日

ゆいまーる琉球の自治 in 西表島の集い参加者一同

●遺伝的多様性乏しい大浦湾のアオサンゴ

静岡市で開催中の日本サンゴ礁学会で、名護市大浦湾で昨年見つかった大規模なアオサンゴ群集は、ほかの地域のサンゴに比べ遺伝子の多様性に乏しいことが、灘岡和夫東京工業大学教授らのグループから報告された。遺伝子レベルの多様性が少ない生物の集団は、環境の変化や病気などの影響を受けやすく、普天間飛行場代替施設の建設によって、土砂の流入や海流の変化などによる影響が懸念される。灘岡教授らは、大浦湾と石垣島の白保地区、明石地区の三ヶ所のアオサンゴ群集で、それぞれ 40-50 サンプルの DNA を解析し、遺伝子レベルの多様性を調べた。その結果、白保と明石のアオサンゴの遺伝子にはさまざまな変異が見つかったが、大浦湾のサンゴはサンプル間で遺伝子レベルのばらつきがほとんどないことが分かった。

●石垣・明石海域でアオサンゴ大群集発見

石垣島の明石集落から北北東約 1km の海域で水深 1-2m の海底に長さ 200m、幅 30m に及ぶ大規模なアオサンゴ群集が発見された。灘岡和夫東京工業大教授らの研究グループが発見したと日本サンゴ礁学会で発表した。今回発見した群集がある場所は観光客があまり訪れない場所で、研究者らは「踏み荒らされずに保全されたのだろう」と言う。白保のアオサンゴと生息環境が似ている。

アオサンゴはインド洋から太平洋にかけて分布し、骨格の内側が青いのが特徴。白保に続いて昨年、大浦湾でも群集が見つかり、話題を集めている。一方、地球温暖化に伴う海水温上昇で起きる白化現象が増えており、保護が急がれている。

3. 当会の現在の活動と予定

砂浜海岸生物調査をいっしょにやりませんか

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りいたします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。今月からは、NPO法人「海守」でもこの砂浜海岸生物調査に参加を呼びかけています。

なお、今年一年の調査結果を来年2月末でいったん締め切り、今年の報告書としてまとめる予定です。調査を行った方は、それまでに調査結果をお送り下さい。

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●有明海の自然環境保全と地域社会発展の両立を目指して

佐賀大学有明海総合研究プロジェクトでは、2005年度から行ってきた研究の成果を広く公表するため、このたびシンポジウムを開催いたします。興味のある方は下記まで。

日時：2009年1月13日（火）13:00～16:45

場所：キャンパス・イノベーションセンター東京（CIC 東京）1階 国際会議室

アクセス：JR 田町駅から徒歩1分

参加費：無料（ただし、事前申し込みが必要）

懇親会：17:30～19:00 CIC 東京 会費 5000 円

プログラム：

12:30 受付開始

13:00 学長挨拶

13:05 プロジェクト長総括

13:20 研究報告

15:30 合同ディスカッション

16:45 閉会

事前申し込み：氏名，勤務先あるいは所属，住所，電話番号，メールアドレス，懇親会参加の有無を記入の上，電子メールあるいは Fax でご連絡下さい。 Fax 0952-28-8846
e-mail ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp

●第 45 回 OWS 海のトークセッション「北極に迫る危機」

スピーカー：柴崎壮（NHK 制作局科学環境番組部ディレクター）

NHK 制作局の科学環境番組部ディレクターの柴崎氏をゲストに、柴崎氏が、1 年にわたる取材を通して見えてきた、北極で起きている大変動について、お話いただきます。

開催日 12 月 16 日（火） 19：00～20：30（18：30 受付開始）

会場 モンベルクラブ 渋谷店 5F サロン

東京都渋谷区宇田川町 11 番 5 号モンベル渋谷ビル

地図⇒http://store.montbell.jp/search/shopinfo/?shop_no=618851

参加費 800 円

協賛 オリンパス株式会社

定員 先着 60 名

申込み OWS ホームページから事前にお申し込みください。

E-mail:info@ows-npo.org またはお電話でも承ります

(TEL:03-5960-3545 受付時間:月～金 10 時～18 時祝休)

詳しくは⇒<http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#45>

【中四国】

●講演会「どうなる？瀬戸内海」～もし上関原発が着工し稼動したら～

12 月 13 日(土)18：30～

広島市まちづくり市民交流プラザ北棟 6 階マルチメディアスタジオ

(広島市中区袋町 6-36 TEL 082-545-3911)

講師 湯浅一郎さん (環瀬戸内海会議顧問)

主催 プルトニウム・アクション・ヒロシマ

お問合せ 090-6437-7784 (橋本) (情報提供 環・太田川)

5. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

●倉沢栄一著「海辺の生きもの ガイドブック」阪急コミュニケーションズ
¥2,400 pp.143

●「ライフセービング LifeSaving」2008 vol.08 日本ライフセービング協会監修
発行元：舵社

ライフセーバーのための雑誌に、「海の生き物を守る会」の紹介記事が掲載されました。

6. 事務局便り：

- 講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

7. 編集後記

師走に入り、寒さも一段と厳しくなってきました。山口県長島の埋め立てをなんとかして止めさせるために、とうとう島民の差し止め訴訟と別に、市民も訴訟に立ち上がりました。泡瀬干潟の判決に続いて欲しいものです。われわれも及ばずながら何とか力になりたいと思います。あきらめないで戦いを続けましょう。

泡瀬干潟の公金支出差し止め判決には、社民党から市長になった東門美津子市長が、社民党が控訴反対を決めたにもかかわらず控訴しました。残念ですが、これからも裁判は続きます。しかし、埋め立てを既成事実させないために頑張りましょう。(宏)

8. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第29号 2008年12月1日発行
発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏
〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1 グリーンヒル北白川23
TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501
メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp
ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>
銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

